

生涯学習概論

Introduction to Lifelong Learning

TSUNAKAWA Shinichi

綱河 信一

科目ナンバリング：USE-1-101-01/UTL-1-301-05



■授業の目的及び到達目標

本授業の目的は、生涯学習の概念と制度、方法、歴史と現状を理解し、生涯学習が個人の自己実現と社会の諸課題の解決と社会の発展、さらに地域のまちづくりにとって、不可欠な概念及び政策であることを理解することである。到達目標は、受講するすべての学生が生涯学習の概念及び生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育との関連や実際の振興方策や現状、課題などの基本的事項を把握できることである。

■授業計画

〔前期〕

- 1 学校をめぐる近年の様々な状況の変化
人間の発達課題、人々の学習要求、現代社会の課題等の観点から生涯学習について学ぶ。
- 2 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題
生涯学習論の誕生、学習社会論、生涯学習行政等の観点から生涯学習について学ぶ。
- 3 中教審答申などから近年の教育政策の動向
生涯学習等の概念や事業が、法的にどのように規定され、支援されているかについて学習する。
- 4 家庭教育・学校教育・社会教育の意義や課題、関連性
国や都道府県の生涯学習の審議会、社会教育の審議会の答申等について学習する。
- 5 生涯学習の概念と意義
主に、ヨーロッパの成人教育、生涯学習について学び、日本がヨーロッパから受けた影響について考える。
- 6 社会教育法、生涯学習振興法
社会教育法並びに生涯学習振興法それぞれの背景、目的や国、都道府県の責務等について学習する。
- 7 中教審答申などからみた生涯学習の在り方
生涯学習の基礎は、家庭教育や学校教育で培われるものである。それらの意義についてを答申等から学習する。
- 8 諸外国の教育事情、教育改革の動向、生涯学習の動向
主に、イギリスの教育制度、教育改革や生涯学習の動向等について学習する。
- 9 生涯学習の内容や形態、学習方法（事例）
地域における公民館の役割とその学習機会、各種事業、運営、方法等について学習する。
- 10 生涯学習センターの機能とその事業
公民館に比べて広域を対象に、高度な学習機会の提供や多様な事業、指導者養成等により、生涯学習を支援する生涯学習センターについて学習する。
- 11 図書館及び博物館とその事業
生涯学習を支援する図書館及び博物館の機能と事業、学校との連携について学習する。
その際、図書館法、博物館法を参照する。
- 12 高等教育機関等と生涯学習事業
生涯学習に占める高等教育の重要性が大きくなっている現状である。リフレッシュ教育やリカレント教育に関して、大学や大学院などの高等教育と生涯学習の関連性について学習する。
- 13 前期試験及び試験の事後解説
前期試験を実施し、その後、フィードバックとしての試験内容の解説及び前期の学習内容のまとめを行う。

〔後期〕

- 1 青少年教育施設等とその事業（その1）
青少年交流の家・青年の家や勤労青少年ホーム等の事業について学習する。
- 2 青少年教育施設等とその事業（その2）
少年自然の家や児童館、児童文化センター等の事業について学習する。
- 3 女性教育施設等とその事業
女性教育会館や女性センター、男女共同参画センター等の事業について学習する。
- 4 高齢者学習施設とその事業
高齢者の社会参加や生きがいの創造に資する高齢者センターや高齢者大学（院）及び高齢者団体等について学習する。
- 5 学校開放講座と通信教育・技能検定と生涯学習
学校開放講座は、大学や小・中・高等学校等で行われている。人々の日常生活の充実、教養の向上、ICT技術の習得・活用など、地域社会の発展に貢献する開放講座について学習する。また、生涯学習の成果として、資格を得ることは重要な課題である。資格取得に貢献する社会通信教育と技能検定について学習する。
- 6 生涯学習ボランティア活動
生涯学習活動として、重要なボランティア活動の意義と具体的な活動事例について学習する。
- 7 NGO、NPO等と生涯学習
生涯学習に貢献しているNGO、NPO等の多様な団体の活動について学習する。
- 8 民間の生涯学習機関及び企業と生涯学習
行政とともに、生涯学習に貢献している民間教育事業（カルチャーセンター等）について学習する。
また、人々の人生の大きな部分を占める企業・職域における生涯学習事業について学ぶ。
- 9 地域の一般行政と生涯学習
市区町村の教育委員会以外の一般の行政部局、すなわち首長部局の展開している生涯学習事業について学ぶ。
- 10 余暇と生涯学習
生涯学習は、余暇の活用においても行なわれている。余暇の本質について学び、余暇をいかに生涯学習に活用するかについて学習する。
- 11 学校と生涯学習（その1）
学校教育は生涯学習社会において最も重要な基本的部分を担っている。その観点から見た学校教育の社会的本質について学習する。
- 12 学校と生涯学習（その2）
学校と家庭・地域・社会・企業の関わりの変化について学習する。
- 13 後期試験及び試験の事後解説
後期試験を実施し、その後、フィードバックとしての試験内容の解説及び後期の学習内容のまとめを行う。

■授業の方法

講義とともに、インターネットも活用する。適宜、教材等を用いて学習内容の理解の深化を図りたい。また、各種団体の実践事例なども取り上げていく。受講者が身近な公民館等の施設を訪問し、説明を受けることも重要である。

■予習・復習

予習は、教科書の指定範囲を読み、要点を整理する。理解困難な概念や用語については、辞書、事典、インターネット等を活用して調べる。復習は、教科書や資料の当日の学習範囲を再読する。また、教員が提示した課題に対して、簡易レポートを作成し、次回に提出する。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

試験60%、レポート及び授業への取組40%。試験については、前期、後期各1回、択一式と論述方式を併用する。試験を受けるには授業数の2/3以上の出席が必要である。教科書等を活用して、毎回の授業内容について予習や復習をすることが必要である。

■教科書・参考書

- 1 教科書：馬場祐次朗 執筆・編集『二訂 生涯学習概論』（ぎょうせい）
- 2 参考書：伊藤俊夫代表編著『新訂 生涯学習概論』（ぎょうせい）
- 3 参考書：倉内史郎・他著『生涯学習の基礎』（学文社）、
- 4 参考書：吉富啓一郎・他著『生涯学習の展開』（学文社）、他は必要に応じて授業中に紹介する。

■関連する科目

社会教育主事講座科目、教育原理、ボランティア論／ボランティア活動と生涯学習、健康科学C／環境・社会と健康